

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	1-2-3		事業名	青少年科学館展示物整備事業				
担当	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 那須野 Tel 211-3871							
全 体 計 画								
事 業 内 容	<p>開館後25年以上が経過した青少年科学館について、老朽化した施設の修繕と、展示物の更新を計画的に実施する。</p> <p>青少年科学館の展示物の今後のあり方について、専門家や教育関係者、一般市民等の意見も聞きながら検討していく。</p>							
事 業 内 容	<p style="text-align: right;"><年度別の事業内容></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">平成19年度</td> <td style="width: 70%;">力学系展示物の更新</td> </tr> <tr> <td>平成20年度～平成21年度</td> <td>科学館の展示物の今後のあり方を検討</td> </tr> </table>				平成19年度	力学系展示物の更新	平成20年度～平成21年度	科学館の展示物の今後のあり方を検討
平成19年度	力学系展示物の更新							
平成20年度～平成21年度	科学館の展示物の今後のあり方を検討							
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p style="text-align: center;">平成19年度事業内容(決算)</p> <p>力学系展示物の更新 39,900千円</p> <p>【事業内容】 当該整備事業では、青少年科学館の開館当初に設置し、25年以上が経過していた展示物「力のサークル」を廃止し、ボールのいろいろな動きが見られる「ニュートン・ガーデン」と様々な力学系の体験ができる「チャレンジ・ラボ」を整備した。この結果、子どもたちが運動とエネルギーを楽しく遊べる機会を提供できるようになったことに加え、科学教育の大幅な充実を図ることもでき、平成20年4月のリニューアル後は観覧者の増加にもつながっている。</p> <p>○観覧者数 平成19年4月 19,557人 → 平成20年4月 25,635人</p>		<p style="text-align: center;">平成20年度事業内容(決算)</p> <p>青少年科学館の展示物のあり方の検討に当たり、検討手法の整理等、実施に向けた準備作業を行った。</p>					
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p style="text-align: center;">平成21年度事業内容(決算)</p> <p>青少年科学館の展示物の今後のあり方について、学識経験者や公募委員等から構成される社会教育委員会議に諮問し、展示物整備の今後の方向性等に関して検討してもらい、平成22年3月に答申書が提出された。</p> <p>答申書においては、今後重点的に整備すべき展示分野として、4つの分野(雪や氷、環境・エネルギー、宇宙・天文、地学)が示されたほか、個々の展示物を見直す観点や、展示物の評価・検証などの取組みの重要性などについて提起された。</p> <p>【答申書の構成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 答申の位置づけ 2 展示物のあり方について <ol style="list-style-type: none"> (1) 展示物の役割の明確化 (2) 展示物の魅力アップ (3) 展示物の配置の見直し (4) 更新を見据えた展示物の導入 3 展示分野のあり方について <ol style="list-style-type: none"> (1) 拡充が必要な展示分野 「雪と氷」、「環境・エネルギー」、「宇宙・天文」、「地学」 (2) 展示分野の再構築 4 今後の科学館について <ol style="list-style-type: none"> (1) 展示物の評価・検証 (2) 説明資料の充実と検証 (3) ボランティアの活用 		<p style="text-align: center;">平成22年度事業内容(決算)</p> <p>答申書で示された内容を踏まえ、機器が老朽化し更新が必要になっていた既存の環境コーナーについて、環境・エネルギーをテーマとした新たな展示コーナーとしてリニューアルした。</p> <p>地球温暖化や再生可能エネルギーなどについて、子どもを中心とする来館者が、楽しくわかりやすく理解できるような体験型の展示物を多数導入した。</p> <p>【主な展示物】</p> <p>○地球温暖化 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2コート 重さが異なるボールの中から二酸化炭素を模したボールを探し出し、二酸化炭素と他の気体との比重の違いを理解する展示。 ・シャボン玉実験装置 二酸化炭素を溜めた水槽にシャボン玉を入れると、比重の重い二酸化炭素の層の上にシャボン玉が浮くことを観察する展示。 </p> <p>○再生可能エネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電体験 来館者がバイクをこぐことでLED照明を点灯させ、太陽光発電を実験する展示。 ・燃料電池実験 水素と酸素の化学反応により発電する燃料電池の仕組みを用い、札幌市営電車の模型を走らせる展示。 </p>					

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-3		事業名	青少年科学館展示物整備事業			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
入場者数	292,854人	351,645人	342,258人	328,168人	358,112人	352,000人	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 従来から実施している観覧者アンケートを、平成22年度も夏と冬の特別展実施期間を中心に実施し、観覧者のニーズや要望を施設の運営改善や事業の見直しに反映している。今後はこれまで蓄積した観覧者の意見を展示物の整備等に活用していきたいと考えている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)				課題			
<p>○平成19年度に整備した力学系展示物は、3階展示室の中心的な展示物として、設置以来小中学生をはじめとする来館者から高い人気を得ており、市民の科学に対する関心を喚起し、理解を促進するという青少年科学館の機能の増進につながっている。</p> <p>○社会教育委員会議の答申書において、展示物の整備に関する基本的な方向性が示されたことから、今後の展示物の整備をこれまで以上に効果的・計画的に進めていくようになった。</p> <p>○上述の答申書に基づき、平成22年度に環境・エネルギーコーナーの整備を行い、展示物のより一層の充実を図ることができた。</p>				<p>○時代の変化や市民ニーズ等を的確に反映させながら、札幌らしい展示物を製作する必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>青少年科学館は、少子化により子どもの数が減少している状況の中、年間34万人前後の観覧者数を維持しており、科学館に対する市民ニーズは大きい。 しかしながら、昭和56年の開館から約30年が経過し、老朽化した施設設備とともに、展示物の更新が大きな課題となっている。 今後については、引き続き多くの市民の期待に応える事業展開を図っていくとともに、社会教育委員会議の答申書を踏まえ、青少年科学館が魅力ある施設として、今後もその役割を十分に果たしていくため、計画的・効果的な展示物の更新を継続的に実施していく必要がある。 あわせて、展示物の更新に伴い、実演・教室等のソフト事業のさらなる充実を図っていく必要がある。</p>							

様式イ

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)